

第16回茨城地区分析技術交流会開催報告

㈱日立ハイテクサイエンス 坂元 秀之

2019年11月29日に日本分析化学会関東支部・同茨城地区分析技術交流会の主催で題記の分析技術交流会が山口 央代表幹事(茨城大学理学部 化学コース)のもと、いばらき量子ビーム研究センター(東海村)にて行われた。関係者のご尽力により108名と多くの方にご参加いただいた。講演でははじめに関東支部長の早下 隆士先生(上智大学)から「ナノ空間包接場に基づく超分子分析試薬の開発」、次いで下垣内 泰輔先生(株式会社アサカ理研)からは「液敵噴出による2液相乳濁混合の制御と評価」と題してご講演いただいた。ポスター発表・企業展示を挟んだのち、同交流会の幹事を務められる2名の先生からご講演いただいた。大橋 朗先生(茨城大学理学部 化学コース)から「超臨界二酸化炭素抽出系における新規な分離・検出系に関する研究」、山本 博之先生(量子科学技術研究開発機構)からは「量子ビームを利用した表面ナノ領域の解析」と題してご講演いただいた。ポスター発表では28件(学生:20件、一般:8件)と活発な討論がなされた。協賛企業は20社となりその内13件の企業に実機を用いた展示を実施いただき、短い時間ではあったが活気あふれる場となった。

講演終了後は引き続き、ご講演いただいた先生方を交えた情報交換会(参加者73名)が行われた。産官学と様々な分野の方々が気軽な形で情報交換されていた。会終盤ではポスター賞の発表が行われ、関東支部長の早下先生より3件の学生ポスター賞、1件の一般ポスター賞を発表いた



写真1 ご講演の早下支部長

いた。受賞者の方々に早下先生から賞状と副賞が手渡された。年々、活発さが増す本交流会であるが来年も同様に盛況な交流会を開催できることを期待したい。最後にご講演いただいた早下先生、下垣内先生、大橋先生、山本先生、協賛いただいた協賛企業、関連機関・団体ならびに本交流会の運営にご尽力いただいた関係者の皆様、参加いただいた皆様に改めて深く御礼申し上げます。



写真2 ポスターセッション



写真3 ポスター賞受賞者の皆さん(中央4名:早下支部長, 山口代表幹事)